

<金標準、6300 円を固め 6500 円へ強気の相場へ>



(出所：オアシス)

金標準先物は、FOMC 以降はテーパリング要因を受けて下値追いを試しながら、パウエル FRB 議長やウィリアムズ NY 連銀総裁などのハト派の FOMC メンバーのコメントを受け、下げ渋る中、週末発表された雇用統計では、非農業部門就業者数が事前予想の 72 万人増に対して 85 万人増。失業率は事前予想の 5.6%を上回る 5.9%となるなど、市場の認識である逼迫状態から乖離した結果となっている。そのためリスク緩和に伴い、リスク商品は買われるなど、NY 金も 1800 ドルを向う動きを見せている。

特に債券市場では、米国 10 年債やドイツ 30 年債の金利が低下しており、金価格においては強気の要因となるなど、高値から 400 円以上の調整を終えた金標準先物は、6500 円に向けた戻りを見せる可能性が高くなると予想される。

(2021 年 7 月 4 日記載)

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI (短期・長期) で見た場合は、RCI における短期が長期を上回る強気のクロスが発生し、その後、長期が切り上げだすなど強気の転換を示している。また MACD でも MACD が切り上げながら下げ止まるシグナルを上回る直線まで届き、MACD とシグナルの乖離を示すヒストグラムも強気に転じる可能性が高く、移動平均線で示す 40 日移動平均線が位置する 6500 円へ向けた上昇が予想される。